

ん）「廃用性の機能低下をなくし、残存機能を引き出して役に立つようにする」（Bさん）と語った。対象者の初期からの小さな困りごとを一つずつ解決していくことで信頼関係は構築される。

- ③ “作業”のとらえ方：ALSの作業のとらえかたを「現象で捉えるか抽象的な精神論でとらえるかで変わってくる。そしてターミナルケアは作業の概念をかなり広くとらえる」（Aさん）と語った。現象でとらえる作業だけではなく、精神心理的な活動も作業に含まれるのである。
- ④ 人と人、心と心を結ぶコミュニケーション：「自分の気持ちをパソコンで打ち込むことで、他の人（ヘルパーや訪問看護師）に自分の気持ちを分かってもらえる」（Cさん）と語っており、コミュニケーション機器は対象者の気持ちをくみ取る重要な手段と考えてよい。
- ⑤ 介護支援と介護拒否：「ピアサポートを用い、フラストレーションをため込まない、発散する場を作ることが大切になる」（Aさん）「リハの現場に立ち会ってもらふことや、対象者がどこまでの機能が保っているかをしっかりと見てもらい、理解してもらうことが必要である」（Bさん）と語り、家族への精神的サポートも重要となる。
- ⑥ チーム形成と作業療法士の役割：「他職種とノートを使用し、情報交換をスムーズに行い作業療法士には何が求められているのかを知ることが大切」（Aさん）と語り、それぞれの職種が個々の考え方で対象者と関わるのではなく、チーム全体で一人の対象者に関わることで、対象者の進行状況に合わせた支援を行うことができるのである。
- ⑦ 生きていくための呼吸リハ：「呼吸リハは生きていくうえで一番大切なこと」「ただ胸郭を動かすだけではなく、肺に負担をかけない

ように体勢や環境を変えるのも呼吸リハである」（Bさん）と語っており、できるだけ自発呼吸をし、話すことができるように支援を行う。

4. 考察

今回行った3名のインタビュー調査から、ALSに対する作業療法士の関わりで必要となってくる技術として次の6項目が考えられた。①対象者を評価し、希望を実現できる技術、②コミュニケーション機器の知識、③疾患についての知識と予後予測、④家族への対応力、⑤チームの一員として役割を達成する技術、⑥呼吸リハの知識と技術である。

ALSは進行に伴い、残存機能が徐々に減っていく。その中で対象者の希望を叶えるために対象者の残存機能を評価し、疾患について深く知ることが必要である。その知識の中には、コミュニケーション機器や呼吸リハも必要になるだろう。また、進行性の疾患において必要になるのは家族の受け入れと家族との関係である。これらがALSに対する作業療法士に必要な技術ではないかと考える。

5. まとめ

作業療法士がALSに関わる意味として、作業療法士がALSの対象者の希望を100%実現するということが考えられる。それを実現することは対象者にとって生きている意味となり、生きがいとなる。そのため作業療法士はコミュニケーションをとりながら信頼関係を築き、広い視野で作業をとらえ、情報をチームで共有する技術と知識が必要である。